

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第66回 ●

■ 久しぶりの日本

2月末に日本に帰国となったが、3年半の間にすっかり忘れてしまったこともある。今回は、改めて気付かされた日本について述べてみたい。

①四季がはっきりしている。まず一番違うのが天候である。今年のドイツは冬が全く寒くなく雪も降らなかつた。日本に帰ってからの方が寒さを実感した。また、湿度が欧州に比べて高いこと、風が強いことが寒さを増加させているのではないかと思う。夏の暑さは欧州では想像できないだろう。

②食べ物がおいしい。おそらく諸外国人は日本人は日本食ばかり食べていると思っただろうが、日本は日本食だけでなくあ

りとあらゆる料理が食べられる。しかも日本人が好むように味付けを変えている。頑固なドイツ人とは大違いである。会社では通常外に食べに行くのだが、新橋周辺では選択肢がたくさんあり、1ヶ月経っても同じ店に行つたことがない。ただし、値段が高いのが難点。

③人が多い。人口はさほど変わらないが、人口密度が全然違う。満員電車はやっぱ辛い。

ただ、人が集まる所にはドイツシュなど無料で配っているからありがたい。おかげでポケットティッシュを買わなくても済んでいる。

④TVが面白い。日本人にしか分からないだろうが、日本のTV番組は本当にいろいろありがたい情報を見せてくれるし、面白いコンテンツが一杯だ。アイドル関係のTV、CMが見られるようになったのもありがたい。

⑤街が明るい。震災の影響で節電しているとは思いますが、欧州に比べれば明るい。スカイツリーやイルミネーションなんか日本ならではのだろう。ドイツに来てわかつたのだが、欧州人は暗い所が良く見える。だから照明はほとんどつけない。逆に明るい所が苦手なので、夏はサンングラスが必須となる。日本は駅周辺は明るいし、道にも街灯があつて防犯にも役立っている。

では、連珠の違いはあるのだろうか？私の印象では基本的には大きく変わらな

いと思っている。外国人でも新手が出ればそれを研究するし、実戦が基本という所も変わらない。ただ、コンピュータに頼り過ぎて

いるくらいはある。無駄な知識は不要という考え方もある。一見無駄に見える知識も実は役に立つこともあるというところがそのうち

わかるだろう。コンピュータによる行きすぎた結果主義がマイナス面であろうか。逆に日本人は、なかなか新しいことにチャレンジしないという面があると思う。それがチャレンジ精神旺盛な外国勢と意見が合わない原因かもしれない。ただ、最近の若手を見ていると、外国人のセンスを持つた選手も増えてい

るので、頼もしい限りだ。望むらくは、英語だけはしっかり身につけておいてほしい。これからは仕事も趣味もグローバルだよ。

さて、4月によく城西連珠界に行くことができた。久しぶりの実戦だったのでわくわくしながら打つたが、やはり読みがまだまだ不足のようだ。その中で、若手の神谷君と打った譜をご紹介しよう。

翌日が東京連珠会の定例会で水月がテーマということだったので、水月5題を

